

## 事故を未然に防止するために

1. 雪解け及び雨の降った後の増水時は大人と一緒にあつても川などの危険な場所へ近づかないようにする。
2. 増水時はもちろんのこと、普段のときでも子供だけでは川や沼などに近づいてはいけないうこと及び川や沼の怖さを目こころから子供に十分言い聞かせておく。
3. 増水時に限らず、大人と一緒にいったときには、子供の動きから目を離さないようにする。
4. 川など危険な場所を遊んでいる子を見かけたら、自分の子でなくても注意をしたり、声を掛けたりする。

## 事故が起こったときや

### 目撃していないが起こったかもしれない というときには

ちゅうちよせず

## 消防署 119番

へ通報してください

### 一刻も早い救助活動が命を救います

#### 沼や池

流れのない沼や池などでは今の時期でも水が張っているところがあります。厚く、乗っても大丈夫なように見えても、真冬と違いかなり緩んでいます。もしそんな水に乗って遊ぼうとしたら……。そのうえ、この時期は堤防に雪解け水がたっぷり含まれており、柔らかく崩れやすかったり、滑りやすくなったりしています。

#### 水路

この時期では、幅の狭い水路などがまだ雪で覆われていることがあります。真冬にはその上を歩いても大丈夫ということもありましたが、今の時期ではそうはいきません。水路が浅ければよいのですが、幅が狭くてもかなり深いものもあり、落ちるとその中から抜け出せないということもあります。

このように、雪解けの時期には川や沼、水路など、身の周りに普段予想のつかないような危険がいっぱいあります。

### 守ってあげられるのは

#### 「あなた」です

このように危険がいっぱいあるもの、長い年月を過ごしてきた大人でさえその危険を忘れがちです。ましてや、人生経験の浅い子供には、この時期の河川などの周辺がどれほど危険なものか理解できていません。身の危険を知る能力がまだ備わっていないのです。未来ある子供を守り、育てるのは大人です。両親ばかりでなく、社会全体の責務なのです。弱い者をしっかり支え、導き、社会の宝として大切に育てなければなりません。

そのためには、水の怖さを知らない子供たちに、その危険性を大人が教えてあげなければなりません。子供が気をつけるだけでは無理です。大人であるあなたの監視の目も必要です。水の怖さを知っている「あなた」が子供にその怖さを教えてあげるとともに、常々事故を未然に防ぐ努力をしなければなりません。

### 万が一事故が

#### 発生したときには

1. 一人で見つけたら、近くに転落している人を見つけたら、近くにいる人に助けを求め、現場に残る人がいる場合は、溺れている人から目を離さないようにする。このとき浮き輪など水に浮かぶものやロープの手配もお願いする。それと同時に消防署にも通報をお願いする。
2. 近くに人がいなくて現場にいるだけで助けなければならぬときには、
3. ロープなどが近くにあるときや準備できたときは、水に浮かぶもの（浮き輪、木材、ポリタンクなど）にロープを結んで投げ入れてやる。また、ロープが両岸から届くようであれば、先回りして水面上に両岸からロープを張ってやる。
4. やむを得ず水の中に入って助けなければならぬときは、溺れている人にしがみつかれて、自分も溺れてしまふことがあるので、十分に注意して行う。このとき、ロープなどを体に結び、片方は何かに結んだり、一緒にいる人に捕まえてもらおう。ロープなどがないときには、浮き輪など水に浮かぶものを持って助けに行く。さらに、辺りを十分に確認し、可能と判断できる場所で冷静に行う。消防署から救助隊などが駆け付けたときには、その指示に従う。

